

10 月季節の便り



コジュケイ 1 番子 2 番子：

先月の季節の便りで、2 番子を孵しているのではないかとお知らせしていましたが、8 月末頃 2 番子が 4 羽孵り出てきました。

6 月下旬に誕生した 1 番子がずいぶん大きく親並みの大きさになり、2 番子の世話をしていました。

栗の実：

生産緑地の栗の実が稔ってきました。生産緑地も宅地化が進み少なくなってきました。



カッコウ雛：



多磨霊園ではこれまでもカッコウが渡来して、オナガの巣に托卵をしていましたが、今年は例年に比べて2ヶ月近く遅い雛の誕生でした。これも今夏の暑さの影響なのでしょうか。この雛は育ての親のオナガから給餌してもらっていましたが、この2日後にはオナガからの給餌が無くなり、葉に付いている虫などを食べるようになるまで見届けました。翌日からは旅立ちをしたのかだれも雛を確認していません。

キジバト：

これまで紹介していませんでした。
市街地でも一年中よく見かける皆さん
お馴染みのハトです。繁殖期以外では
雌雄の区別は難しいです。



コサメビタキ：

ムシクイの仲間で、高い所の枯れ枝の
先によく止まります。

サンコウチョウ若鳥：

長い尾をした成鳥のみは夏鳥で人気者
です。

若鳥は南方への渡りの途中の立ち寄り
を撮りましたが、輪郭でサンコウチョ
ウと分かる位のものでしたので、以前
撮ったものを代用しました。



ヨタカ♀：

毎年彼岸の頃、渡りの途中の立ち寄る
ようで、木の枝のこぶと見間違っ
くらいで昼間は枝にくっついたまま
じっとしています。よく見つける
ものだと感心しています。